

富運整第469号
平成29年 2月 3日

貨物自動車運送事業者 各位
旅客自動車運送事業者 各位

富山運輸支局長

大型自動車等の車輪の脱落事故防止について

標記について、北陸信越運輸局自動車技術安全部長から別紙写し（平成29年2月2日付け北信技整第230号・北信技保第118号）のとおり通達があったので了知されるとともに、添付資料「ストップ！！ザ・車輪脱落事故」(<http://www.mlit.go.jp/common/001151122.pdf>)に示す事故防止のためのポイントのうち、特に下記事項について周知・徹底をお願いします。

記

1. 日常（運行前）点検の確実な実施
一日一回、運行の前に、ホイール・ボルトの折損や緩み等がないか点検ハンマなどを使用して点検を確実に行うこと。
2. 一定走行後（50～100km）の増し締めの実施
締め付け後は初期なじみによってホイール・ナットの締め付け力が低下するため、50～100km 走行後を目安に増し締めを行うこと。特に J I S 方式のダブルタイヤの場合の締め付け方法については注意すること。

北信技整第230号
北信技保第118号
平成29年2月2日

富山運輸支局長 殿



自動車技術安全部長

大型自動車等の車輪の脱落事故防止について

標記について、自動車局整備課長から別紙写し（平成29年1月31日付け国自整第315号の2）のとおり通達があったので了知されるとともに、整備管理者研修等のあらゆる機会を捉え、平成28年11月4日付け国自整第206号の添付資料「ストップ!!ザ・車輪脱落事故」(<http://www.mlit.go.jp/common/001151122.pdf>)に示す事故防止のためのポイントのうち、特に下記事項について関係者への周知・徹底を行うようお願いします。

記

1. 日常（運行前）点検の確実な実施
一日一回、運行の前に、ホイール・ボルトの折損や緩み等がないか点検ハンマなどを使用して点検を確実に行うこと。
2. 一定走行後（50～100km）の増し締めの実施
締めつけ後は初期なじみによってホイール・ナットの締め付け力が低下するため、50～100km 走行後を目安に増し締めを行うこと。特に、JIS方式のダブルタイヤの場合の締め付け方法については注意すること。

国自整第 315 号の 2
平成 29 年 1 月 31 日

北陸信越運輸局自動車技術安全部長 殿

自動車局整備課長
(公印省略)

大型自動車等の車輪の脱落事故防止について

標記について、公益社団法人日本バス協会及び公益社団法人全日本トラック協会あてに別添のとおり通知したので了知されるとともに、整備管理者研修等のあらゆる機会を捉え、平成 28 年 11 月 4 日付け国自整第 206 号の添付資料「ストップ!! ザ・車輪脱落事故」(<http://www.mlit.go.jp/common/001151122.pdf>) に示す事故防止のためのポイントのうち、特に下記事項について関係者への周知・徹底を行うようにされたい。

記

1. 日常（運行前）点検の確実な実施

一日一回、運行の前に、ホイール・ボルトの折損や緩み等がないか点検ハンマなどを使用して点検を確実にを行うこと。

2. 一定走行後（50～100km）の増し締めの実施

締めつけ後は初期なじみによってホイール・ナットの締め付け力が低下するため、50～100km 走行後を目安に増し締めを行うこと。特に、JIS方式のダブルタイヤの場合の締め付け方法については注意すること。



国自整第 315 号
平成 29 年 1 月 31 日

公益社団法人日本バス協会 会長 殿
公益社団法人全日本トラック協会 会長 殿

国土交通省自動車局整備課長

大型自動車等の車輪の脱落事故防止について

標記については、平成 28 年 11 月 4 日付け国自整第 206 号により、大型自動車（車両総重量 8 トン以上の貨物自動車及び乗車定員 30 人以上の乗合自動車）等の適切な車輪脱着作業を貴会傘下会員に対して徹底するよう要請していたところです。

今般、昨年 4 月から 12 月までに発生したホイール・ボルト折損やホイール・ナットの緩みによる大型自動車の車輪脱落事故件数を確認したところ、29 件（速報値）となっており、前年同期の発生件数（28 件）よりも多い状況となっております。

また、先般とりまとめた月別車輪脱落事故統計によれば、冬季に集中して発生し、特に 2 月の事故発生件数が最多となっている状況です。

当課では、2 月の発生が多いことについて、本格的な降雪前に実施した冬タイヤへの交換から 1 ヶ月から 2 ヶ月を経過し、ある程度の走行が行われ、ホイール・ボルト締め付け後の初期なじみが発生し、ホイール・ボルトの締め付け力が低下していたことにより発生が多くなっているのではないかと見ているところです。

については、平成 28 年 11 月 4 日付け国自整第 206 号の添付資料「ストップ!!ザ・車輪脱落事故」(<http://www.mlit.go.jp/common/001151122.pdf>) に示す事故防止のためのポイントのうち、特に下記事項について貴会傘下会員へ再徹底を行うようお願い申し上げます。

記

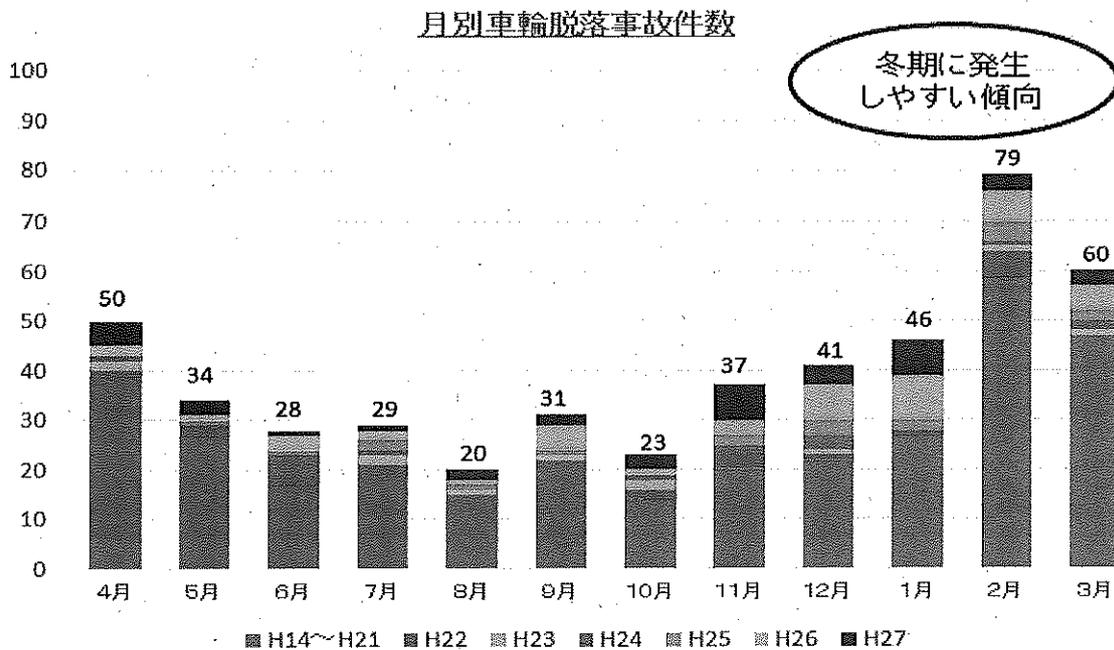
1. 日常（運行前）点検の確実な実施

一日一回、運行の前に、ホイール・ボルトの折損や緩み等がないか点検ハンマなどを使用して点検を確実に行うこと。

2. 一定走行後（50～100km）の増し締めの実施

締めつけ後は初期なじみによってホイール・ナットの締め付け力が低下するため、50～100km 走行後を目安に増し締めを行うこと。特に、JIS方式のダブルタイヤの場合の締め付け方法については注意すること。

《参考》月別車輪脱落事故件数（大型自動車）



—大型車をご使用の皆様へ車輪脱落事故防止のお願いです。

(別添)

ストップ!! ザ・車輪脱落事故

大型車の車輪脱落事故ゼロへ

車輪の脱落事故が起きています

大型車・車輪脱落事故

412件!

平成15年1月～平成26年12月(年間約34件)



車輪が脱落するまでには必ず予兆があります。
日頃の点検・整備で車輪脱落事故を防止。
ご自身による車輪まわりの点検をお願いします。

車輪脱落事故の多くは、ホイール脱着後1か月以内に起きています。正しい脱着作業をお願いします。

車輪の脱落は、路上故障や他の交通の妨げとなるばかりではなく、歩行者や他の車両の乗員の命に係わるなど、場合によっては重大な事故を引起し、社会的信頼を損なうことにもなりかねません。

安全確保のために、日頃から、正しい点検・整備の実施をお願いします。
あなた自身による、正しい点検・整備の実施が重要です。

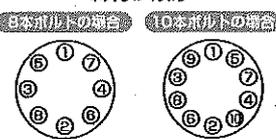
車輪脱落を防ぐ、4つのポイント

確実な締付け

締付け方式には、球面座で締付けるJIS方式と平面座で締付けるISO方式があります。規定の締付けトルクで確実に締付けます。



締付け順序



増し締めの実施

締付け後は初期なじみによってホイールナットの締付け力が低下します。50～100 km走行後を目安に増し締めを行います。



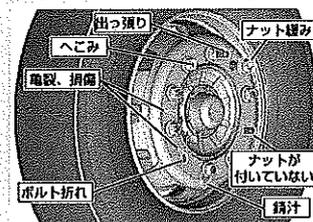
JIS方式(球面座)ダブルタイヤの場合



この図は右側タイヤの場合です。

日常の点検

一日一回、運行の前に、ホイールボルト、ナットを目で見て、さわって点検します。異常を発見したら直ぐに整備工場へ。



ホイールの履き替え

スチールホイール、アルミホイールの履き替えには、それぞれ適合するホイールボルト、ナットの使用が必要です。必ず確認してください。



JIS方式(球面座) 6穴・8穴

	スチールからアルミに履き替え	アルミからスチールに履き替え
フロント	アルミ用のナットに交換(※)	スチール用のナットに交換(※)
リヤ(ダブルタイヤ)	ホイールボルト、インナーナットをアルミ用に交換	ホイールボルト、インナーナットをスチール用に交換

※日野車は、ナットに加え、それぞれ専用のホイールボルトに交換します。

ISO方式/新・ISO方式(平面座) 8穴・10穴

	スチールからアルミに履き替え	アルミからスチールに履き替え
フロント	ホイールボルトをアルミ用に交換(ホイールナットは共用品)	ホイールボルトをスチール用に交換(ホイールナットは共用品)
リヤ	ホイールボルトをアルミ用に交換(ホイールナットは共用品)	ホイールボルトをスチール用に交換(ホイールナットは共用品)

詳しい情報は… 日本自動車工業会 HP
日本自動車車体工業会 HP
日本自動車タイヤ協会 HP

<http://www.jama.or.jp/user/>
<http://jabia.or.jp/use/trailer/index.php>
<http://www.jatma.or.jp/tekisei/>

国土交通省
(一般社団法人) 日本自動車工業会 いすゞ自動車/日野自動車/三菱ふそうトラック・バス/UDトラックス
(一般社団法人) 日本自動車車体工業会 トレーラ部会
(一般社団法人) 日本自動車タイヤ協会



大型トラック(トレーラ)・バスのホイールボルト関係の点検内容

ー大型車：車両総重量 8 トン以上のトラック(トレーラ)または 乗車定員 30 人以上のバス

日常点検

1 目視での点検

- ホイールナットの脱落やホイールボルトの折損はないか。
- ホイールやホイールボルト、ナットのまわりに錆跡がでた痕跡はないか。
- ホイールナットから突出しているボルトの長さに不揃いはないか。
- ホイールに亀裂や損傷がないか。

2 点検ハンマなどを用いての点検

- ボルトの折損やナットの緩みがないか、ホイールナットの下側に指をそえて、点検ハンマなどでナットの上側面を叩いたときに、指に伝わる振動が他のホイールナットと違ったり、濁った音がしないか。

3か月点検

1 一つのナットで締付ける方式の緩み点検

- トルクレンチを用いるなどにより、ホイールナットを規定のトルクで締付けます。

2 インナー、アウターのナットで締付ける方式の緩み点検

- 最初にボルトの半数(一個おき)のアウターナットを一旦緩め、インナーナットをトルクレンチを用いるなどにより規定のトルクで締付けます。
- 次に、緩めたアウターナットを、トルクレンチを用いるなどにより規定の締付けトルクで締付けます。
- 続いて、残りの半数のホイールボルトのアウターナット、インナーナットについても同様の作業を繰り返します。

12か月点検

1 ディスクホイールを取外して行う点検

- ホイールボルトやナットに亀裂や損傷がないか、著しい錆の発生がないか。
※ワッシャー(座金)付きナット(ISO方式)では、ワッシャーがスムーズに回転するかも点検。
- ホイールボルトに伸びはないか。
- ボルト、ナットのねじ部に「つぶれ、やせ、かじり」などの異常はないか。
- ホイールのボルト穴、かざり穴のまわりや溶接部に亀裂および損傷がないか、ホイールナットの当たり面に亀裂や損傷、摩耗がないか。
- ホイールのハブへの取付面、合わせ面に摩耗や損傷がないか。

2 ディスクホイールを取付ける際に行う点検

- ホイールの取付面、合わせ面、ホイールナットの当たり面、ハブ取付面、ボルト、ナットの錆やゴミ、泥、追加塗装などの異物を取除きます。
- ホイールボルト、ナットに指定の潤滑剤を薄く塗布します。(イ)
 - ・JIS方式の場合…ボルト、ナットのねじ部および座面(球面座)部に塗布
 - ・ISO方式の場合…ボルト、ナットのねじ部およびナットとワッシャーとのすき間に塗布
(※ホイールとの当たり面には塗布しない)
- (ア)ドライ方式(潤滑剤を塗布せず締付ける方式)の車両では、油分の塗布は厳禁です。
- ホイールナットの締付けは、対角線順に2~3回に分けて行い、最後にトルクレンチを用いるなどにより規定のトルクで締付けます。
※インパクトレンチで締付ける場合は、締付け時間や空気圧などに留意し、締め過ぎないように十分注意します。最後は、トルクレンチを用いるなどして規定のトルクで締付けます。

締付け不足、締め忘れ防止のため、作業終了後、(規定のトルクで)確実に締付けたことを確認するようお願いします。

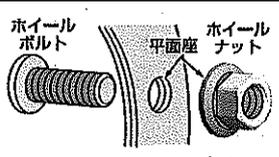
- 50~100 km走行後を目安に、増し締めを行います。

締付け方式

ホイールの締付け方式には、球面座で締付ける JIS 方式と、平面座で締付ける ISO方式があります。大型トラック・バスでは「排出ガス規制ポスト新長期規制適合」車から、左右輪・右ねじとする「新・ISO方式」を採用しました。

アルミホイール/スチールホイールの履き替えには、それぞれ適合するボルト、ナットの使用が必要です。

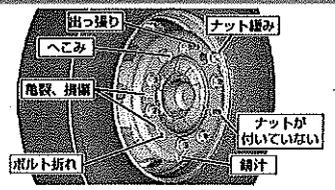
〔後輪ダブルタイヤの締付け構造〕 ISO方式(8穴、10穴)



JIS方式(6穴、8穴)



目視での点検



点検ハンマなどを用いての点検



ねじの締付け方向を確かめて締付けます



JIS方式ダブルタイヤの締付け手順

- ①アウターナットを緩めます。
- ②インナーナットを締付けます。
- ③アウターナットを締付けます。

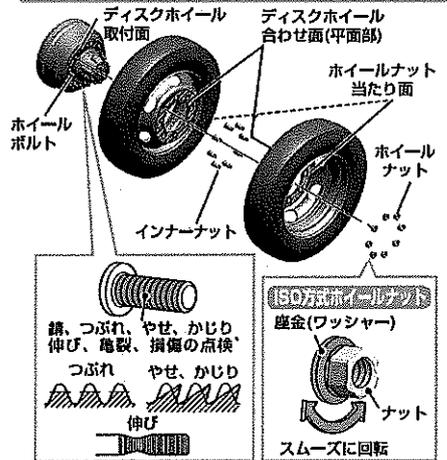


(最初に半数を点検) (次に残りの半数を点検)



6本ボルトの場合

ホイール、ハブ、ボルト、ナットの点検箇所



ディスクホイールの点検箇所

